

地産地消 といがた農業の未来⑨

や
いろ
す
いか

夏の一大ブランド「八色西瓜」

西瓜の产地として全国的に知られる新潟県。特に南魚沼市産「八色西瓜」は糖度が十三度と、日本一甘く抜群のシャリ感と舌触りで、最高級品との評価を受けています。当たり外れがあるとも言われる西瓜の中で「どれも外れがない」とされる八色西瓜。「つくる人と西瓜に惚れて貰ってほしい」とひと玉ひと玉わが子のように育てる生産者の九十余年に及ぶ歴史と、JAと生産組合が一体となって取り組んできたブランド化の経緯を訊いた。

『八色西瓜』は日本の夏の風物詩

いろ
すいか

ただ自然を手伝うだけ



人に惚れて西瓜を買う

ともすれば当たり外れがあるとも言われる西瓜の品質。だが、八色西瓜は「どれも外れがない」と言う。「それは、一つの株から収穫される玉数を制限し、収量より品質を重視しているからです」と上村さんは語る。

平成十五(二〇〇三年)、最新鋭の自動選果機を導入して、外観、空洞、糖度をセンサーによって測定することができるようになった。「西瓜に光を通し、西瓜の糖度を測り、収穫された西瓜の格付けを行つて、最高品質の八色西瓜」

瓜だけを出荷しています」。

J A魚沼みなみ・石田武さんは言う。現在、生産組合では、大玉(八色西瓜)八十粒、小玉(八色つ姫)十粒を作付けし、百十四戸の生産者が年間約四十五万玉を生産している。この生産数は他産地と比べるとかなり低い。それは繰り返すが、品質を高めるための一株あたりの玉数を制限するから。

上村さんは言う。「市場も県内がほとんどで、首都圏な

どへは滅多に出まわりません。この八色原に来てくださつて、この土地と、西瓜をつくつている人、つくられた西瓜に惚れて買つてほしいんです」

JA魚沼みなみ・徳永昌彦さんは、商工会と連携し、加工品化に取り組み、昨年十二月から八色西瓜の西瓜糖と西瓜果汁を用いた『八色生チョココレート』を販売。毎年収穫時期の七月下旬～八月中旬には『八色スイカまつり』を開催している。

種類

品種	出荷時期
●八色つ姫(やいろっこ/小玉)	七月上旬～七月下旬
●八色西瓜(やいろすいか/大玉)	七月下旬～八月上旬

八色スイカまつり

- 開催日/時間 平成24年7月下旬～8月中旬 9:00～16:30
- 会場 JA魚沼みなみ農業センター内特設会場 〒949-7302 南魚沼市浦佐5130-1
- 問い合わせ 大和観光協会 〒949-7302 南魚沼市浦佐1188-2 TEL 025-777-3054 FAX 025-777-3191 E-mail yamakan@sepia.ocn.ne.jp http://www9.ocn.ne.jp/~yamakan/ ※新潟市内の大和新潟店跡地で恒例の八色スイカキャンペーンを開催予定。

- JA魚沼みなみ オンラインショップ <http://www.uonuma-komeshop.jp/>
- 問い合わせ JA魚沼みなみ 営農部 園芸畜産課 〒949-7302 南魚沼市浦佐5130-1 TEL 025-777-3180 FAX 025-777-3842

※八色西瓜は県内大手スーパーなどで購入できます。

八色西瓜の生チョコレートが買える店

- 栄泉堂菓子舗 TEL 025-779-2026
- 池田屋菓子店 TEL 025-779-3026
- 玉屋菓子店 TEL 025-777-2021

春から秋にかけて椿、コブシ、桜、ツツジ、チューリップ、藤、ひまわり、コスモスと、八つの花が咲くことから名づけられた南魚沼市八色原(やいろのか)』と呼ぶ。生産組合長・上村芳男さんは語る。「八海山をはじめ越後三山など、周囲を山々に囲まれた盆地帯にある八色原では、大正末期から昭和初期にかけて、大和町三用(みよう)地区で西瓜栽培が始まりました。土壤は水はけの良い黒色火山灰土で、昼夜の温度差が激しく自然条件が西瓜栽培に適しています」。

昼に光を浴び、夜に冷えて根を休めた西瓜は甘くなる。八色西瓜の糖度は十三度前後で日本一の甘さだ。JA魚沼みなみ・徳永昌彦さんは、「当初から八色西瓜のブランド名で出荷され、栽培の歴史は九十余年にな

ります。初め農家一戸当たりの作付面積も「一〇十坪」程度と小規模で、自家採種で品種改良も行わずに出荷されました」と言う。その後、出荷組合が設立され、作付面積が拡大。魚沼・長岡・新潟までの穀物不足で栽培は一時中断されたものの、昭和二十三(一九四八年)年に再開。そのとき、三用地区をはじめとする四地区で生産組合が設立され、昭和五十六年の選果機導入を和五十六年の選果機導入を機に『八色西瓜生産組合』が発足。以降、生産者とJA魚沼みなみが一体となり、高品質化を取り組んできた。

生産組合長を務めて九年目になる上村さんは農家を継いで八代目。今年で五十年になると、八色西瓜栽培の仕事を「ただ自然のお手伝いをしているだけで、西瓜の顔を見て、有機肥料を使って農業ができるだけ控え、皮にきれいな縞模様と光沢を出していくのに座布団を敷いて仕上げます」

「日本一美味しい」と言われる八色西瓜は、わが子のように慈しんで管理する、上村さんたち生産者の愛情から生まれる。

